

## ～「ながさきけん希望大使」から伝えたいこと～

会社でミスが目立つようになりました。「何故こんなに思い出すことができないのか」と、疑問に思うようになり、「認知症かもしれない」という不安が頭によぎりました。職場の上司からの勧めもあり、専門医を受診しました。

診察を待つ間、「認知症だったら子供たちの将来はどうなるのだろうか。身内だけだったらいいけど、会社や周りの人に迷惑を掛けてしまうのではないかと色々不安に思いながら、「思い違いであってくれ」と願っていましたが、医師から認知症という病名を言われ、頭が真っ白になりました。

「子供達の将来の事を考えたら落ち込んでばかりいても仕方がない。今自分ができる事を探していくしかない」と、何事もポジティブに考えようと決め、1年半近く経った時に病気のことを受け入れる事ができるようになりました。

認知症は昔の痴呆症というイメージが強いので、差別的な目で見られないか、打ち明けるのに不安はありましたが、「知ってもらっていた方が周りも接しやすいのではないかと、思い私や家族に関わる人には伝えていきます。伝えたことで、家族や自治会、勤め先の職場も理解してくれるようになりました。また、地域包括支援センターの職員やその他の機関と繋がる事ができたのも認知症という事を隠さずにいたからだと思います。

一方、若年性認知症は見た目では元気そうに見える為、病気のことを分かってもらえず、ひどい事を言われ、精神的に落ち込むこともありました。また、体調が悪くなり仕事を休むことが増え収入面で不安定にもなりました。子供達が高校を卒業するまでは仕事はしたいと思っていますが、いつまで続ける事ができるのか不安もありました。

認知症の普及活動を行う中で、認知症本人や家族がまわりに言いにくい状況が発生しているように感じます。私はそのようなイメージを払拭し、認知症の方が自ら発信できるような地域になったり、認知症の方同士が繋がる場所があったりすれば過ごしやすくなるのではないかと思います、東長崎で「おれんじ語ろう会」を立ち上げました。

最近は記憶が抜けたり、外に出る時に居場所が分かりにくくなったり、言葉が言いづらくなったりしており、自分の中から色んなものが抜けていく感覚があります。しかし、今認知症を発症し苦しんでいる方、これから認知症を発症する方の希望としてこれからも地元長崎の希望大使としての活動を続けたいと思います。

ながさきけん希望大使  
田中 豊 様

